

第一回保育部会 議事録

開催概要

- 日時:2025年3月17日(月)13:00 - 14:30
- 開催形式:オンライン会議
- 参加者 北海道厚沢部町、各地の保育園留学実施地域の園、地域事業者
(本部会は非公開で実施のため、参加者は詳細は割愛)
 - オブザーバー:国土交通省、こども家庭庁、文部科学省
 - 主催:キッチハイク 川上、千種

議事内容

1. 自己紹介

各参加者が自己紹介を行い、それぞれの園や地域における保育園留学の取り組みや現状、課題について共有した。

- 地域の特色を生かした保育を実施しており、保育園留学を通じて全国のご家庭と地域のこどもたちとの交流が深まっている。特にリピートされるご家庭も多くなっている。
- 現在の課題は、保育士の確保と持続的な運営です。地域のシニア人材や短時間勤務の保育士を活用しているが、今後の安定した運営に向けてさらなる施策が必要な状況
- 地域の自然豊かな環境を生かした保育を提供しています。以前から一時預かりを実施しており、その経験を活かして保育園留学を導入。ただし、市の規制により一時預かり事業としての活用が難しく、現在は独立した事業として運営
- 東京からのアクセスが良い地域なので、保育園留学は二地域居住のモデルケースとしての可能性を秘めている。
- 住宅支援と保育環境の整備を一体化させることで、都市と地方をつなぐ仕組みを作ろうと考えている。
- 都市部の家族が短期間の滞在を経て移住につながる事例が増えてきている。
- 当園では、森のようちえん的な要素を取り入れた保育を実施して小規模な園で、自然を生かした教育が特色。
- 保育園留学を通じて、都会の子どもたちに自然体験を提供することが可能。ただし、小規模園での受け入れには課題も多く、安全管理や宿泊施設の確保が大きな問題。現在は地域の旅館と連携し、宿泊手配をサポートする形を取っている。
- 当市は自然が豊かで、海と山の環境を活かした保育を実施中。保育園留学を通じて、地域の魅力を多くの家族に伝えることができる。しかし、運営に関しては補助金の適用が難しく、完全に自主事業として運営している。そのため、安定した収益モデルを確立することが課題。

2. 保育園留学の実施・継続における地域課題

(1) 保育士確保の課題

- 受け入れを進める上で、保育士の確保が大きな課題となっている。

- こども主体保育の実現のために、元々、国の配置基準よりも多くの保育士を配置し、子ども主体の保育を実践しているが、今後、地域のこどもが加速的に減少していくなかで、自治体が「留学児を一定数見込んだ職員配置」を検討していきたい
- 保育士については、短時間勤務の保育士や地域のシニア人材を活用する取り組みも行われている。しかし、今後、受け入れ児童数が増加した場合、保育士の確保がさらに必要となる。

(2) 在園児数の減少と留学児受け入れのバランス

- 在園児の減少が進んでおり、今後は留学生の受け入れ数が在園児を超える可能性がある。
- かつて120名いた園児が現在70名ほどに減少してきている中で、1歳児クラスですでに留学児の数が在園児を超えるケースも発生しており、今後の対応が求められる。
- 留学児を在園児とみなす形で補助金などの適用ができるような制度設計の必要性が必要。
- 園児数の減少に対応するため、柔軟な施設利用計画が求められる。

(3) 運営費の確保

- 一時預かり制度の活用が地域によって異なり、補助金が適用されないケースが多い。
- 市の方針で県外の保育園児は、一時預事業としての運用が認められず、別の収益事業として独立した形で運営している。
- 補助金に依存しない形で自主事業として保育園留学を実施しており、「誰でも通園制度」との連携による補助金適用の可能性を検討。
- 自治体との連携を強化し、財政的な支援を求める方向で合意。

3. 安心・持続可能な留学生受け入れ

(1) 事前面談の重要性

- 保護者との面談を実施し、アレルギー対応や発達特性を事前に把握している。
- 動画を活用し面談の時間短縮を図る試みもありつつ、面談自体は必要で、面談を通じて特性のあるお子さんの対応を事前に実施することが重要。
- 今後もデジタルツールを活用した情報共有の強化が必要

(2) 情報共有の仕組み

- 宿泊施設と連携する園では、情報共有システムを活用し、円滑な受け入れを実現。
- 旅館との連携を強化し、システム導入を進めている。
- 保護者との情報共有の透明性を高めるための仕組みづくりは継続して課題。

4. 保育園留学実施園の基準

(1) 受け入れ園の最低基準

- いい園もあるが、原則としては、認可保育園は最低ラインとして基準にするのがいい。
- 監査基準(保育士配置、苦情対応、教育方針の透明性など)を満たしていることが園児を受け入れるための最低条件
- 一方で認可の有無に関わらず、保育の質を評価していくことも重要

(2) 受け入れの評価指標

- 保護者への情報提供の分かりやすさや、保育士の意識・スキル向上も重要。
- 保育士が楽しんで保育をすることが園の魅力向上に繋がっている。

5. 今後の進め方

- 各園へのアンケートを用意してヒアリング実施
- 第二回は5月12日週に開催予定